



チャドで砂漠化の取材をしている桃井さん

貧困の背景にある環境問題は「心」の問題 選択できるようにする教育が不可欠

桃井和馬

フォトジャーナリスト

貧困や飢餓の問題を引き起こす根源は、環境破壊にある。環境を破壊しているのは、普通の人々だが、ではなぜそのようなことが起こっているのか。「世界の未来はアフリカからわかる」と提唱している、フォトジャーナリストの桃井和馬さんに聞いた。

資源が戦争を引き起こす

私はこの仕事を始めて25年ほどになりますが、当初はフォトジャーナリストのハイライトともいえる戦争や紛争の現場を主に取材してきました。

しかし、テレビなどと同じで、報道写真でも「泣いたシーンが欲しい」とか「戦争の悲惨さを伝えるために、手がなくなった人の写真を」ということを言われます。そのうちに「戦争の現場を撮っているものにも変わらないのではないか？」という思いを

抱くようになりました。

戦争の背景にあるものに目を向けると、それは石油や水などの資源であったり、土地・領土であったり、地球にある限られたものの奪い合いであることが多い。貧困や飢餓という問題に目を向けても、その背景には長年繰り返されてきた環境破壊がある。そうしたことから、環境問題を切り口に取材活動を行うようになりました。

戦争の現場に行くと、本当に普通の人たちが人を殺すようになっていく場面を目撃します。普通の人

をそのように変えてしまうものは何なのかを見ていくと、そのモチベーションになっているのは飢餓や水であったり、資源であることが多い。つまり生きていくのに不可欠な物の奪い合いです。

宗教や民族の違いが取り沙汰されますが、それは火に注ぐ油ではあっても、火の元ではない。まず火種となる問題があって、その上に宗教や民族、あるいは政治的な権力欲という油が注がれて燃え上がるという構図です。

92年のリオサミットが行われていたとき、私はアマゾンに入っていました。すでに熱帯雨林の破壊は相当深刻な状況でした。あのサミットがあつて、環境に対する意識は一時盛り上がりましたが、結局すぐに下火になった。それが、ここ数年また盛り上がりつついるのは、人々が「このままではまずい」という状況を肌で感じるようになったからでしょう。

爆発する欲望のコントロール

もうひとつ、私が最近感じるのは「心」の問題です。ボルネオの森林を80年代から定期的に訪れて、定点